

学校だより

やさしい子

たくましい子

考える子

9月号



黒門

令和4年9月1日

発行者 台東区立黒門小学校

校長 石田 隆

夏の思い出や経験を胸に

校長 石田 隆

「夏と言えば」をテーマにした深夜のラジオ番組が流れていました。「虫捕り」が話題になった時に、子供の頃に我が家で飼っていたスズムシの鳴き声や、ベランダに突然やってきたノコギリクワガタを見つけた時の感動！がよみがえりました。

今夏。自宅のベランダに出て、長女とコーヒーを飲みながら夜風を楽しむことが何回かありました。星や月、流れていく雲のようす、街の夜景や上空を進む飛行機を眺めながらのんびりと他愛もないおしゃべりをしました。ちょっとした素敵な夏の思い出になりました。

夏季施設 宿泊行事終わる

5年生「霧ヶ峰移動教室」(7月8-10日)と、夏休み中の4年生「常総市宿泊校外学習」(7月28, 29日)、6年生「日光林間学園」(8月8-10日)で、今年度の宿泊行事が終了しました。いつもと違う環境下で、**級友と寝食を共にしながら、貴重な体験をすることができました。**

3年ぶりの3学年実施となったので、本区夏季施設の引率が初めての教員が増えたり、計画を(コロナ禍版に)練り直したりという苦勞(特に4年生はこれまでの「岩井」から、初めての「常総」に変更され、よりたいへんでした)もありましたが、各学年の担任は現地や関係機関と何度も連絡をとり、有意義な時間を過ごせるように努めました。

＊

宿泊行事では、生活班と行動班が編成されます。当然、「あの子と一緒に班になりたい」という気持ちはだれにでもあります。しかし、班員数は一部屋あたりの人数や活動内容で決まってしまうので、子供たちが納得し(あるいは譲歩し)、楽しめそうだと期待をもてるようにするために各担任が時間と神経を使ったことは言うまでもありません。このように編成された班を中心とした生活で子供たちはどんなことを学んだでしょうか。

＊

常総の宿で、夕食前の一時に、縁側に腰を下ろしゆっくりと中庭を眺める男児4人がいました。そこに活発な会話はありませんでしたが、穏やかな心持ちが伝わってきました。のんびりした時間もあった一方で、次の行動を確認し合ったり、時計を見て協力をして活動したり、片付けたりする場面も多くありました。普段以上に**友達と気持ちと力を合わせる必要**もあったことでしょう。また**教室では見られない友達の様々な姿**に接することもできたでしょう。

＊

学校生活でも、これからの社会生活においても、友達や隣人は、競争する相手というよりは、**共生する大切なパートナー**と考えたいです。先が見えないと言われる世の中では、人を見下したり、足を引っ張り合ったりしては共倒れになりかねません。「どうやったらひと(他人)が気持ちよく活動できるか」を意識することが、**集団の力を発揮させ価値あるもの創り出す**、そして、自分自身の潜在能力を引き起こすことにもつながります。

夏の経験を生かして、その第一歩を今日から再び踏み出せるといいなと思います。